湊小

自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子どもの育成

～言語活動の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　加　藤　　慎　一

１　研究主題について

本校は、昨年度、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子どもの育成」を研究主題とし、教科を４教科（国語・社会・算数・理科）に広げて、「話す・聞く」を中心に言語活動のさらなる充実を図りながら、次のような手立てを工夫した。

〇基礎・基本のさらなる定着
〇自分の考えたことを表現させる方法
〇問題解決のための交流の場の設定

その成果として次のようなことが挙げられる。

・授業の初めに前時の復習をしたり、挿絵・具体物・半具体物の使用や動作化など問題提示の仕方を工夫したりすることで、主体的な自力解決につながった。
・自分の意見をまとめる時間を確保し、ペア、グループ、全体と話合いを繰り返し行うことで自分の意見を伝えることができるようになった。
・友達の意見を聞いて、うなずく、付け加える、質問するなど少しずつ反応できるようになってきた。

その一方で、話合いの中で、教師が分かりやすく言い換えたり、付け加えたりなど話合いがスムーズに進むように子ども同士の話合いに教師が大いに関わらないと話合いが成立しないことが多い。また、言葉だけのやり取りだと正確に相手に伝えることや聞いて理解することが難しいので、実物、資料や図などを活用した話合いができるようにしていきたい。意見を話す、聞くことはできるようになってきたので、相手の話を聞いて自分の考えを深めたり、相違点を見つけてよりよい方法を考えたりする話合いをできるようにさせていきたい。

そこで、今年度も上記の研究主題を継続して設定し、日々の授業実践において言語活動の工夫をすることによって、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子ども」の育成を目指すこととした。

２　研究のねらい

意欲をもって説明しようとする子どもを育成するために、自分の考えが相手に伝わるように話す指導や、相手の伝えたいことを考えて聞く指導を工夫することによって、基礎・基本が定着するとともに、思考力・表現力が高まることを実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

相手に伝わるように話したり正確に聞いたりする活動の工夫をすることにより、基礎的な知識・技能が身に付き、自分の考えを的確に表現できる児童が育つ。

４　研究内容

(1) 児童が意欲的に問題解決に取り組むようにするための工夫
　ア 「問い」や必要感をもたせる手立て
　　① 課題提示の工夫
　　② 発問の吟味
(2) 児童同士が積極的に関わる学び合いができるようにするための工夫
　ア 話合いのもたせ方の工夫
　　① 授業のどの場面で話合いをさせるか
　　② ペア、グループ、全体
　イ 説明のさせ方の工夫
　　① 図や資料を使って説明する
　　② 用語（既習事項、教科の専門用語、本文からの引用など）を使って説明する
　　③ 理由や根拠を明確にして説明する

ウ 話合いの仕方の工夫

① 言い換えて話す

② 付け足して話す

③ 質問したり聞き返したりする

④ 相手が話したことを受けて自分の考えを話す

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名	授業者・指導助言者	主な内容
6	23	４学年 国語 「一つの花」	授業者：教諭　三浦　圭太	ゆみ子をとりまく状況の変化から、十年後のゆみ子と戦争中のゆみ子を比べながら話し合う学習。ネームプレートを活用して立場をはっきりさせ、サイドラインを引いて根拠や理由を明確にしたことで自分の意見を分かりやすく発表できた。教師が「今の意見はどう思うか。」と全体に広げていくような話合いをしていくとよい。

(2) 一般研修

月	日	内　　容	
5	6	タブレット研修会	本校ＩＣＴ主任　　講師　三浦　潤也
6	2	タブレット研修会	本校ＩＣＴ主任　　講師　三浦　潤也
6	16	特別支援研修会	講師　こども支援センター 副所長　種子　和憲氏
8	20	特別支援研修会	本校ことばの教室　教諭　小林　美希子
9	29	タブレット研修会	本校ＩＣＴ主任　　講師　三浦　潤也
11	24	タブレット研修会	本校ＩＣＴ主任　　講師　三浦　潤也
2	22	ＣＲＴ分析・考察	

6　研究の成果

(1) 導入にゲームやクイズ、センテンスカード、視覚に訴える資料、既習事項の確認を取り入れることで、意欲的に問題解決に取り組むようになった。

(2) ペア・３～４人グループなど、授業のねらいに応じて話合いの場を設定した。話型を提示してパターンを身に付けさせる話合いを繰り返し行うことで、自分の意見を伝えることができるようになってきた。

(3) キーワードや図、順序を表す言葉などを板書し、意識して使うようにさせたことで、話合いや説明のときに視点がずれないようになってきた。

7　研究の課題

(1) 意見を話す、聞くことはできるようになってきたが、自分の考えを比べながら聞く、聞いたことをしっかりと理解して自分の考えを深めているかといえば個人差がある。各教科において、基礎・基本を徹底させ、話型の提示などパターン化し、話すことに抵抗がないようにさせていく必要がある。

(2) 話合い活動の中で、分かるところまで発表したり付け足して説明したりすることや友達の考えを理解して言い換えて説明するなどして全体で考えをまとめていけるような学び合いの指導が必要である。

（記入者　　中川　彩子）